

群馬県大学図書館協議会

会報

第14号

発行 2005年8月31日
 編集 群馬県大学図書館協議会
 「会報」編集委員会
 前橋市荒牧町4-2
 (群馬大学総合情報メディアセンター内)
 ☎ 027-220-7178

群馬県立県民健康科学大学附属図書館誕生!!

図書GL 井上 護

平成17年4月1日、「群馬県立県民健康科学大学附属図書館」が誕生した。増設もして頂き、広々とした図書館へと変身することができた。今までの図書館と違った点を施設面で紹介すると、

- ①個人机を16台増設
- ②開架書架を6列増設
- ③インターネット用パソコンを4台増設(未定)

等が大きな変化である。その他にも書架サインの作成、コピー機2台の並列と物置台の設置等々、細々したところにも気配り、新しい図書館づくりをした。本学学生や学外者からも大好評である。

また、利用面では、開館時間を平日を20時まで開館、土曜日を第2、第4の9時から17時まで開館とした。その対応も今までの学生アルバイト対応を廃止し、すべて職員対応とし、県民公開の充実も図った。今回の移行に伴い、短大図書館で抱えていた、施設面、人的な面、サービス面などの諸問題点をかなり修正できたという成果があった。

今年度もまだまだ仕事があり、雑誌の選定見直し、電子ジャーナルの導入、書架サインの作成、開架書架・閉架書架の資料展開、紀要関係等々課題が山積みである。また、個人的には去年お金をかけずに職員でリニューアルした図書館のホームページの充実、データベースの研究、導入にも力を入れたいと思っている。今年度職員が1名増員されたが、4人共が本当に大変忙しい状態で毎日を過ごしている。しかし、共に協調性があり、いがみ合いも全くない、とてもいい職場環境であり、新人職員も少しづつ、そして頼もしく成長している。それにより、本学図書館もぐんぐん良い方向に進化できている。

群馬パース大学開学にあたって

群馬パース大学附属図書館 三村 沙矢香

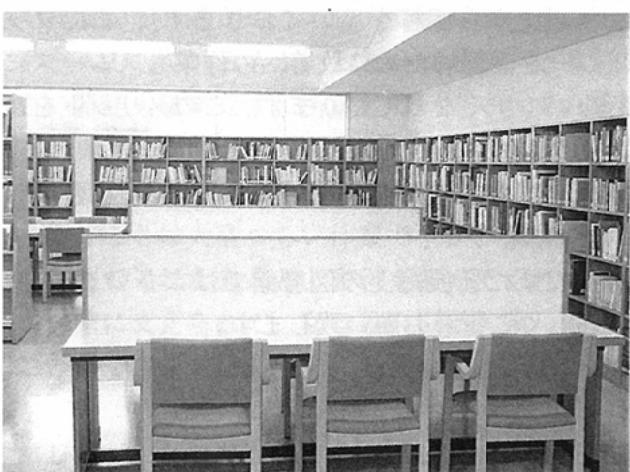
この度、4年制大学化により「群馬パース大学」が開学しました。それと同時に高崎東口に高崎キャンパスが開校しました。1年次の教養・基礎科目は高崎キャンパスで、2年次以降の専門科目は高山キャンパスで開講されます。そして高崎キャンパス開校に伴い附属図書館分館も開館しました。

分館は教員研究室と同じ棟の1階に位置し、開館時間は平日10:00~20:00で、貸出業務には自動貸出機を導入しております。

蔵書は高崎キャンパスで開講される教養系科目・専門基礎科目の図書を中心とした構成となっております。

当初は1年生のみの利用なので、あまり利用者がいないのではないかという予想をしておりましたが予想に反し、空き時間にブラウジングしたり授業終了後に自己学習をしていたりする学生が多く見受けられます。開館時間の延長の要望もあり現在調整しているところです。とはいえ、今まででいくつもの問題点が表出しております。ここでは主なものを2つ挙げてみることにしました。

1つ目はレファレンスサービスを積極的に提供できていないことです。図書や雑誌の探し方はガイダンス時に説明したつもりでしたが、いざ利用



する時には学生もすっかり忘れてしまっているようで右往左往する学生がだいぶ目立ちます。

対処としまして案内の見直しや探し方マニュアルの作成、または学生向け情報探索セミナーを行なうことも検討しております。また、今後さらに増加することが考えられる、高山キャンパスの附属図書館本館との資料のやり取りやレファレンスをどのように行なっていくかも今後の検討課題の一つです。

2つ目は学生のニーズを満たす蔵書構成とは言いがたいことです。現在棚に並んでいるのは開学前に選書したものばかりのため、学生や新任教員のニーズに応えられておりません。1年次ということもありますし、本館よりも文学書や読み物の要望が高い一方で、専門書の品揃えの薄さも一部学生より指摘されております。その要望をどのように購入に反映させていくべきかを検討している最中です。

もちろん、分館開館に伴い本館も色々な問題点を抱えております。大学化へ伴う新設科目への対応の準備もさることながら、やはり1番の課題は「大学のカリキュラムと学生の学習を十分にサポートできる図書館づくり」であると思います。その第1段階として、情報探索支援を視野に入れホームページの大幅な改訂をしました。また、昨年に引き続き業務の全体の見直しも行なっております。特に相互貸借業務に関しましては、申込件数の多い時期では全体業務の3分の1を占めるほどになっております。国立情報学研究所のILSでの運用や簡便なシステムづくりを進めているところです。

このように様々な課題を抱えておりますが、図書館と利用者との距離が近いことに非常に助けられております。教員・学生に要望を聞きやすい環境にあり（毎年行なっている学生アンケートは90%以上から回答を頂いております）、またフットワークが軽いために改善への作業もスムーズに行ないやすくなっています。このメリットを踏まえた上での図書館としての最重要課題は「図書館員が学生に敬遠されないようにする」、かもしれません。

まだまだ発展途上の図書館ではございますが、よろしくご指導お願い致します。

群馬大学総合情報メディアセンターの設立

総合情報メディアセンター図書館 滝澤憲也

群馬大学の学術情報基盤を支える組織として、平成17年4月に総合情報メディアセンターが設立されました。このセンターの活動を通じて、群馬大学のさらなる発展の礎となることが期待されています、とセンター長のあいさつにありますように、附属図書館と総合情報処理センターを再編・統合し、新たに群馬大学総合情報メディアセンターがスタートしました。

これまでのサービスはしっかりと継続しながらも、両部門が連携することにより、次のような新たなサービスを提供していきます。

1. 情報教育とサービスの高度化

全学的な情報教育の企画立案及び推進、全学的なIT活用支援、情報リテラシー教育の実践やこれらを実現するための研究開発を行う。

2. 情報基盤の高度化、情報セキュリティーの確保

高度化し続けるIT環境に本学構成員が対応できるよう、教育研修を行う。また、高度なネットワーク環境を整備し、大学のどこでも信頼性の高いサービスを享受できるようにする。

3. IT活用による図書館機能の充実と高度化

従来のコンテンツの電子化を見直し、センターとして発信できる、新たな図書館機能を構築する。

新人紹介

○桐生短期大学図書館

中村真澄

私は小さい頃から本が大好きで、将来は本に関わる仕事をしたいと思っていました。

大学で司書の資格を取得し、4月から桐生短期大学の図書館に勤務して4ヶ月が経ちました。現在は、先輩に指導していただきながら、主にカウンター業務や図書の登録などを担当しています。図書館司書は狭き門であるため、諦めかけたこともありました。憧れの職業に就くことができ、少しずつ仕事にも慣れ、忙しいながらも充実した日々を過ごしています。

本学の図書館は、専門的な雑誌や図書が揃っているので研究目的の利用が多いのですが、それ以外の利用はほとんどないので、今後は趣味、娯楽

目的でも読書を楽しんでもらえるような魅力的な図書の選定をしていきたいと思っています。研究目的の資料についても、利用者のニーズに応えられるよう、今後もより一層努力していきたいと思っています。

また、一人でも多くの方に来ていただけるよう、親身になって図書館利用のお手伝いをしながら、居心地の良い図書館づくりをしていきたいと思っています。

○群馬県立県民健康科学大学附属図書館

山田 玲子

4月より県民健康科学大学附属図書館に勤務して、約4ヶ月になります。

高校の図書館の、優しいお母さんのような司書さんに憧れ、図書館は勤務してみたい場所の一つでした。しかし、理想と現実は違い、待っていたのは、仕事の山、山、山でした。外から見たのではわからなかった様々な仕事がありました。

そのあまりの多さに、誰のための図書館なのか見失いそうな日もありますが、まわりの皆様に支えられ何とかこれまでやってくることが出来ました。

事務職のため、司書の資格も持たず、戸惑うことも多いのですが、皆様どうぞ御指導よろしくお願い致します。

日々の勤務で感じたこと

竹渕 明子

私は、この4月から群馬県立県民健康科学大学の附属図書館に勤務し、主に相互貸借や資料の受入等の業務を担当しています。以前勤めていた公共図書館よりも専門性の高い大学図書館ということで、初めはとまどうことも多くありました。

本学は、看護学部・診療放射線学部がある大学です。そのため、それらの学部の専門書が蔵書の多くを占め、別置されている資料も少なくありません。慣れない当初は、利用者の案内に手間取りお待たせしてしまうことが多々ありました。

また、以前にいた公共図書館では、それぞれの担当業務が細かく決められていたため、自分の担当以外の仕事にかかる機会はほとんどと言っていいほどありませんでした。しかし現在は、書架整理、レファレンス、館内掲示物に至るまで、いろいろな点に気を配り、こなしていかなければな

りません。周りの方々の助けもあり、最近ようやく業務に慣れてきました。大変だなと思う反面、司書の仕事の楽しさを実感しているところです。

これからもその気持ちを大切に、利用者の皆様が利用しやすい、より頼りになる図書館を作っていくように努力していきたいと思っています。

近藤 里美

私の図書館での主な仕事は、文献複写の受付・依頼、雑誌の受入などです。特に文献複写の仕事は、私一人では対応しきれない程、多くの方から申込があり四苦八苦する日もありますが、職員のみなさんに助けていただきながら、日々業務をこなしています。

本学は今年度より四年制大学新設となり、全国でも初の診療放射線学部も新しく開設され、図書館には看護系や放射系など、医療の専門書籍が数多く揃っています。そのため、来館される学外者のほとんどは、病院に勤務されている方や医療系の学校に通っている学生さんです。だいぶ前になりますが、学外の学生さんから「こちらの図書館は図書が充実しているし、何より本が綺麗に並べられていてとても使いやすいです。」と言っています。その時の気持ちを忘れず、利用者の立場から見て利用しやすい図書館を目指し、そして多くの方のお役に立てるよう、これからも頑張って仕事をしていきたいと思います。

○群馬工業高等専門学校図書館

山口 美知代

今年の4月から採用されて3ヶ月が経ちましたが、ようやく仕事の流れがわかつてきました。

主に財務会計を使って支払業務の仕事をしています。思っていた以上に手順が細かく勤められるか不安でしたが職員の方々が親身になって指導して下さり何とか仕事に慣れる事ができました。

私は以前、図書館業務とは全く違う仕事をしていました。接客はなれているので図書館のカウンターもこなせるだろうと思っていましたが相手は若い学生達ですので最初は随分戸惑いました。

今でも十分な対応が出来ているとは言えませんが学生達が気軽に話しかけられるようになればと思っています。

本校の図書館は工業系の書籍が多数揃っています

す。聞いた事の無いような単語が並んだ本を学生達が借りて閲覧机で熱心に勉強する姿が見られたり、雑誌を読んだりビデオやDVDを視聴したりする学生もいます。まだまだ沢山の学生達に図書館を利用してもらいたいと思います。

これからは図書館や利用される学生達のために臨機応変に仕事ができるように努力していきたいと思います。

○群馬大学総合情報メディアセンター図書館

中村理恵

私はこの4月から群馬大学図書館の情報管理係員として、図書の発注・受入を担当しています。日頃から業者の方や先生方とも連絡を取り合う機会が多いので、常に責任感を持って間違えの無い様慎重に仕事をしています。

働き始めた頃は、仕事を覚える事で精一杯でしたので、内容をきちんと理解する余裕が無く苦戦する毎日でした。また、私は音楽大学を今春卒業しましたので、大学での経験の浅いパソコンを中心とした作業にとても戸惑いました。しかし、係長を始め周りの職員の方々が解りやすく丁寧にご指導して下さったお陰で、理解はもちろんの事、仕事に対する意欲も高まりました。今は少しずつですが、仕事にも慣れて書類整理や所蔵確認・書誌検索等で確認をしながら、落ち着いて作業を進める事が出来る様になりました。

また、図書館で働く様になってからは、以前に増して自然と本を読む機会が増えました。これからも良い刺激を沢山受けて、私自身も成長出来る様に学んでいきたいと思います。

○高崎健康福祉大学図書館

司書 本間瑞甫

早いもので働き始めて4ヶ月余りになる。本学図書館は公共図書館や書店などとは異なり、講義に関連ある図書、学生が資料として利用するための専門的な図書が多い。私は短大在学中に書店でのアルバイトを経験している。それゆえ書店においてあらゆる分野の売れ行き良好書や、時期ごとに需要のある本を多少なりとも理解をしていたつもりであった。しかし、これまで私が手にしたことの無い類の図書が大半を占めているので戸惑いを感じている。

また、カウンター業務をしていると時々図書の所在を質問されることがある。その際、利用者が次回から一人でも探し出せるような利用指導を行う。書店での案内とは異なり、分類等も説明しながら、その場限りではない利用者のためのサポートがてきてうれしく思っている。

私はまだ新人で先輩方の支えなしでは、沢山の業務をこなせないが、早く業務に慣れ少しづつでも成長していきたいと思う。しかし、利用者に十分なサービスを提供出来るようになるのは時間がかかりそうだ。

○前橋工科大学附属図書館

生形淳子

憧れの仕事に就いてみて

中学生の時からの夢である図書館司書という職に就いて早7ヵ月、自分の知識不足に悩みながらも、たくさんの本に触れられることの幸せを日々噛みしめています。

7ヵ月間図書館に勤めてみて、図書館というものの奥深さ、また「司書」という仕事の難しさを改めて感じました。特に利用者の質問への返答に関しては、頭を悩ませることが多く、的確な答えをいかに相手にわかりやすい言葉で説明するかということが、こんなにも難しいものなのかと、利用者と接するたびに思い知らされています。

そんな中、自分の仕事をただこなすのではなく、利用者を第一に考えて行動する諸先輩方の働く姿勢は、私にとって学ぶべきことが多く、大きな目標でもあります。私の今後の課題としては、先日出席させていただいた研修会において講師の方が仰っていた「前橋市民の代表として、利用者に接すること。」を念頭におき、本についての知識を増やすとともに常に利用者の立場に立って行動すること、この三つを課題としてあげ、一日一日を大切に過ごそうと考えています。



<エッセー>

俳句と出会つて

育英短期大学図書館 佐藤清美

俳句は、五・七・五の十七音節を基本にした短詩型の文学です。一句の中に季語と切れ字（や・かな・けり等）を入れれば、誰にでも簡単に俳句は作れます。

私は「俳句空間」という季刊俳句雑誌に出会い、俳句を始めました。伝統俳句では「有季定型」と言われますが、「俳句空間」はそういう雑誌ではありませんでした。若い世代の俳人達が執筆していて、俳句の可能性に満ちていました。私はこの雑誌で、第二次世界大戦の時代に、思想弾圧を受けた新興俳句運動があったこと、俳句には教科書に載っているような伝統俳句だけでなく、無季俳句や多行形式の俳句、自由律俳句などがあることを知りました。そうした中で、自分も現代俳句を作ろうと思うようになったのです。

アレクサンドリア

魂の世話をしており夏の水
ユートピアよりの遠征夏の雲
カインらが空に書き継ぐ国家論
罪ありて翼のなきを種の起源
百薬を撒きて罪びとどもの住む
エデンへの手がかりであり薔薇図鑑
光・闇・暁の色目に触れて
極東の言葉で飾る罷百爾（バベル）かな
迷いの森のくるぶしの灯りたる

私の五年前の作品ですが、読んでいて気付かれたでしょうか。そう、この作品は、NDCの分類をテーマにして詠んだものです。図書館にかかる者として俳句作品にしておきたいと思い、各分類ごとにそのテーマや代表的な書籍をイメージして作りました。いわば私の空想図書館です。NDCにこだわって理が勝ちすぎた句もあります。

誰にでも簡単に俳句は作れると言いましたが、人の心に残る俳句を作るのは、まったく簡単ではありません。俳句はとても短いので、作者の言いたいことを伝えきれなかったり、逆に作者が意図していなかった読み方をされたりします。俳句は読み手の心のなかでイメージされて初めて完成する詩なのです。短いからこそ、日本人の共通のイメージを伝える「季語」や、一句の中に前後を切る「切れ」を置いてイメージを飛躍させます。

私の作品は主に無季の俳句です。私は季語だけでなしに、季節を限定して表現しきれないイメージがあると思って無季俳句を作っています。現在ただいま生きる人間として、現在の気持ちを詠みたいと思っているのです。

そんな思いと、俳句での出会いによって、現在、林桂代表、水野真由美編集の季刊・俳句誌「蠶 TATEGAMI」（前橋）に編集委員として参加しています。ホームページでは既刊の号がPDFファイルになっていて全文を読むことができるので、ぜひ一度ご覧になって下さい。

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/tategaminokai/>

この俳句同人誌では毎号特集を組んでいて、優れた俳句を残したにもかかわらず、世に知られていない俳人を紹介するものなどがあります。

私がその特集を執筆する際には、あらゆるところにお世話になります。自館の資料はもちろんのこと、関連文献を調べるのに国立国会図書館の雑誌記事索引を利用し、俳句雑誌を群馬県立図書館に閲覧、コピーに行き、句集そのものを手に入れるのには（ほとんどがもう絶版。）インターネットの「日本の古本屋」をチェック。それでもないときは持っていそうな機関に閲覧に行きます。よくお世話になるのが群馬県立土屋文明記念文学館です。こちらは短歌だけでなく詩歌全般に渡って資料を収集していて、中でも俳句の資料については、故平井照敏氏寄贈の蔵書で、大変充実しています。こうして一本の評論を書くのに利用させてもらえる資料を思うと、資料に関わっている人達に感謝の気持ちが湧きます。まずインターネットで検索ができるというのが大変便利で、データを入力している人がいるということ。図書館が古い雑誌も破棄せずに所蔵していくこと。貴重な資料を広く利用してもらえるよう、寄贈してくれる人がいるということ。

書くことは大変つらい作業ですが、素敵な俳句を残してくれた先人と、資料を蓄えてくれている図書館に支えられて、私は思いを書き残しておくことができます。最後に、先人の素敵な俳句を。

しんしんと肺碧きまで海のたび

篠原鳳作

第3回 群馬県図書館大会 開催のお知らせ

趣旨

群馬県図書館大会は、県内図書館関係者と図書館に関心のある県民が一堂に会し、図書館どおしの連携・協力関係をさらに発展させ、県民への図書館サービスの向上をめざし開催します。

県民の学習目的・学習要求の多様化・高度化、社会の発展・変化に応じた図書館のあり方について研究協議を行います。

この大会開催により、県民の読書活動、生涯教育活動を一層充実させるとともに、子どもの読書活動推進に寄与していきたいと考えています。

記

主 催 群馬県立図書館・群馬県図書館協会
群馬県読書推進運動協議会

後 援 群馬県教育委員会
群馬県大学図書館協議会等

日 時 平成17年11月30日（水）
午前10時～午後4時30分

場 所 群馬県立図書館ホール
放送大学群馬学習センター

日 程 9:30～10:00 開場・受付
10:00～10:50 大会行事
11:00～12:00 記念講演：
阿刀田 高 氏（予定）
(昼食・休憩)

13:00～16:30 テーマ別分科会
(分科会)
第1 県内図書館の連携（仮）
第2 子ども読書活動推進（仮）
第3 住民参加型の図書館運営（仮）

平成17年度群馬県大学図書館協議会 今後の予定

10月	第2回「会報」編集委員会
11月	第3回 群馬県図書館大会 (群馬県立図書館等)（後援）
2月	「会報」第15号 発行
3月	「相互協力便覧」2006の配布 定例総会 (上武大学附属図書館)

群馬県大学図書館協議会会員名簿

育英短期大学図書館	群馬大学総合情報メディアセンター図書館	高崎健康福祉大学図書館短期大学部分館
関東学園大学松平記念図書館	群馬大学総合情報メディアセンター図医分館	高崎商科大学図書館
関東短期大学松平記念図書館	群馬大学総合情報メディアセンター図工分館	東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館
桐生短期大学図書館	群馬パース大学附属図書館	東洋大学附属図書館板倉分館
共愛学園前橋国際大学図書館	上武大学附属図書館	新島学園短期大学図書館
群馬県立県民健康科学大学附属図書館	上武大学附属図書館分館	放送大学群馬学習センター図書室
群馬県立女子大学附属図書館	創造学園大学図書館創造芸術学部	前橋工科大学附属図書館
群馬工業高等専門学校図書館	創造学園大学八千代キャンパス図書館	明和学園短期大学図書館
群馬社会福祉大学図書館	高崎経済大学附属図書館	
群馬松嶺福祉短期大学図書館	高崎健康福祉大学図書館	

編集後記 会報第14号をお届けします。会員のみなさまから原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。

編集委員 関口富江（明和学園短期大学） 奈良厚子（群馬県立女子大学） 潑澤憲也（群馬大学）